

「バス」(2007/11/11)

池本淳一(大阪大学大学院人間科学研究科博士課程・蘭州理工大学日本語教員)

中国の生活の足といえばバスです。

北京や上海には地下鉄や轻轨(モノレールっぽい電車)が走っていますが、東京・大阪なんかと比べると全然少ないので、移動はもっぱらバスが中心となります。

というわけで、今週は中国のバスをご紹介します。



中国ではメインロードには大抵トロリーバス(だっけ?)が走っています。

乗った感じでは、普通のディーゼル車とあまり違いはないように思います。



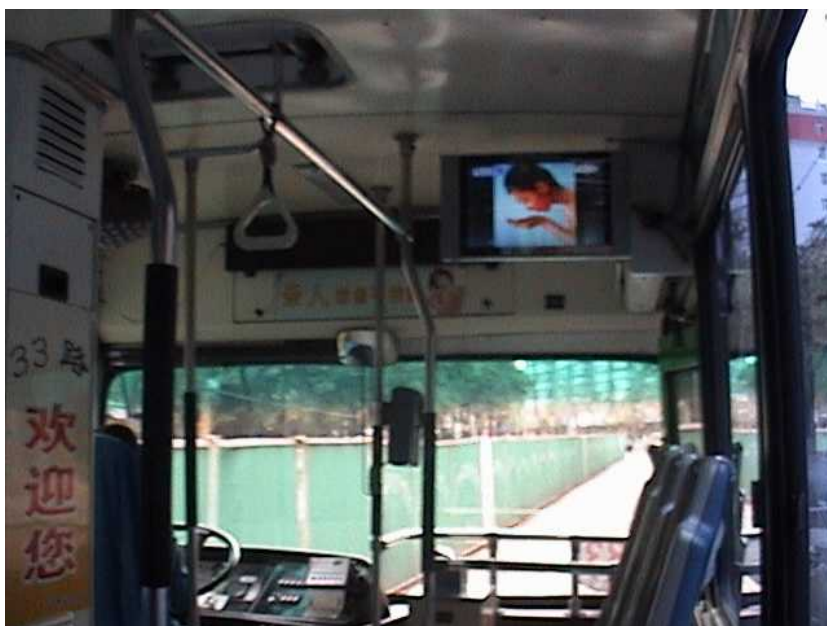
終点ではバスが溜まっています。
この蒼い服を着たおばさんたちが、休憩中の車の窓を掃除します。



終点では電線も折り返し。ちょっとSFっぽい。

そういえば中国のバス亭には時刻表がありません。
しかし昼間なら、だいたい五分も待てば次のバスが来ますので特に不便はないです。

では次は車内の様子です。



公共バスにもいろいろなタイプがあり、小はワゴン車を改造したものから、大は旅行用の大型バスを改造したものまでさまざまです。

旅行用バスの場合は中距離バスの場合が多く、快速だったり高速を使ったりするものですが、それでも公共バス的一种なので10元ぐらいで乗れます。

写真のバスは新型のバスで、テレビ付きです。

蘭州は西部大開発の中心地のひとつで、ここ五、六年で急激にインフラが整備されたそうです。

そのときにバスも一新し、ほとんどのバスにこの薄型テレビがつくようになりました。

ただしエンジン音がうるさく、音声がほとんど聴き取れないので字幕を読むのがメインになります。

ちなみに福田総理のこともバスの字幕で知りました。



これは IC カード式料金マッシーンです。

乗車時にコレにカードを近づけるとピッという音とともに清算してくれます。

ちなみにカードごとに「ラオレンカー（老人カード）」「シュエションカー！（学生カード）」と異なった音声が流れます。

私はまだこのカードを買ってないんですが、銀行とかで買えるそうです。

お金もその銀行で入れます。

ちなみにこのカードを使ったほうが、料金が少し（二、三角だそうです）安くなるそうです。



で、これが小銭式？料金箱です。
ちなみに蘭州ではほとんどのバスは一元です。



一応、お金を入れた後、自分でこのクリップに挟まれている切符？をちぎって持たなければならないそうです。
やったことないですけど。

ちなみに、もし小銭がなかった場合はどうするかというと、この料金箱の横でじつと次の乗客を待ちます。で、あとで小銭で運賃を払う人がいれば、その人からその小銭を受け取っておつりにします。

いわゆるセルフサービスです（違うか）。



次は車内の様子を。

大都市のバスでは、所狭しと広告が貼り付けられています。

そして大抵が産婦人科の広告です。

他方、蘭州のバスにはよく「標語」が貼られています。



「ゴミはゴミ箱へ」「車内をキレイに」そして「ごめんなさい」と「さようなら」。たぶんマナー向上をうたっているのだと思います。



「あぶない！」
中国のハコ乗りは大変です。



優先座席の上の広告。この子はオリジナル・キャラなんですか。





標語とは違うんですが、こんなのもありました。

どうやらある運転手が、洪水かなんかのときに乗客を背負っておろしたということらしいです。で、夕刊に「エライ良い運転手さんがいた！」ということで記事にされ、さらに会社もこの人を「エライやっちゃ！」と表彰したのだそうです。

いわゆる「労働模範」の流れなのでしょうが、蘭州ではけっこうテレビや新聞でこういう表彰というか特集をやってます。いい街だと思います。



これは西安で観光バスに乗った時の写真です。

意味は「料金を受け取って切符を切らない切符売りは汚職と見なす！」です。

観光バスや長距離バスに乗ると、切符は車内の切符売りの人から買います。中にはお金を受け取っても切符を切らない人がいるそうで。

切符には番号がぜんぶ番号が振ってありますので、切符を切らなければその乗客は乗客数にカウントされません。つまり切符代はポッケにナイナイです。

この手のものとしては、「點頭票」があります。

これは地方や農村の公共バスに多いらしいですが、運転手と乗客が知り合いだった場合、運転手がお金を受け取らない、というものです。つまり「うなづく(點頭)」だけで乗せちゃう、と。



おまけ。バスを撮影中に偶然発見。



全部ビールの空き瓶。ぎっちりと詰め込むことで、安定させています。たぶん。

ではでは、今回はこの辺で。